［釈文］
嘉永七甲寅年十一月五日
摂津大津波次第

▲五日七ツ時より沖雷のごとく
うなりつなみと相成高サ
壱丈余りの大浪打きたり
寺嶋近辺勘助しまなんば
嶋天保山大つなみニ而皆々
家根へ上り又はふねをかり
家内をのせ候ふねハ皆々
命をうしなひ舟のり
船頭其ほか女子とも死人
其数しれずつなミにて
道とんぼり下日吉はし
より唐金ばし幸ばし
住吉ばしまて四ツの橋
押おとし大こくばしまで
千石已上以下の北米船凡
百ぱいばかり入こみ剱先
茶ふね天まなとハミな
下敷に相なり堀江川下
水分ばし黒金はし長ほり
下高ばし安治川ばし
みな〳〵橋押おとし又所々に
死人あちらに三人こちらに五人
女子供死害其数しれず
つなミ五日夜五ツ時ニ差おさ
まり安治川へん橋のこらす落る
其こんざつ筆紙につくしがたし
おそるべし〳〵〳〵
未地震おさまり
しさず事
古今稀代の珍事なり
（扇面左下の詞書）
大地震の略図
十一月四日朝
五ツ時より又
五日七ツ時大
地震ニ而所々家々
先ニ地震ニ而そんじ有所
押たをれ候事数しれず
▲天満天神社内より西寺町
福しま天神五百らかん
願教寺門くづれ
阿ハざ戸や町辺ざまの
鳥居落御堂の損じ
順慶町井池塩町
さのやばしへん死人二人
高津寺町安治川
亀井はし
堺市中
奈良
南河内
屋（ママ）瓦ら
くたし
其余こゝに
略